



放送大学東京足立学習センター機関誌

# 葦立

あしだち

【発行日】2023年9月30日



【発行】放送大学東京足立学習センター  
〒120-0034 東京都足立区千住5-13-5  
学びピア21(6階)  
TEL.03(5244)2760 FAX.03(5244)2762  
【編集】葦立編集室

2023年足立区花火大会  
第三講義室から



## 東京足立学習センター創立30周年記念講演会

令和5年8月6日(日)、9月2日(土)に、学びピア21で記念講演会を実施いたしました。2回の講演会で合わせて150名を超える参加者に恵まれ大変好評いただきました。

### 「地球の生物のすがた」 令和5年8月6日(日) 13:30~15:30

【講師】黒谷明美(JAXA宇宙教育推進室 特任担当)

地球の真のすがたをとらえるために、重力と生物との関わりについて、いくつかの話題を紹介されました。



### 「ポストコロナ・AI時代の生涯学習~変わる形・変わらない思い~」

令和5年9月2日(土)13:30~15:30

【講師】岩永雅也(放送大学学長)

ポストコロナ期とAI時代、新時代における生涯学習のあり方について講演がありました。



## Contents

- 就任の挨拶と学習センター30周年について ..... 2P
- 創立30周年記念に寄せて  
放送大学学長、歴代センター所長、東京足立学友同窓会会長より ..... 3P
- 東京足立学習センターの沿革 ..... 6P
- 通信指導について／面接授業について ..... 7P
- 事務室からのお知らせ ..... 8P

# 就任の挨拶と 学習センター30周年について

放送大学東京足立学習センター所長

最上 善広



前任の猪崎先生に代わってこの4月から所長をお引き受けすることになりました。2021年3月にお茶の水女子大学を退職した後、東京足立学習センターで客員教授を務めていました。これまで3年間、面接授業や自主ゼミを担当していますので、おなじみの方もいらっしゃるかも知れません。私は、東京第二（現東京文京）学習センターを皮切りに、放送大学には20年以上関わって来ました。その間、一貫して実験系の面接授業を提供することに拘って来ました。東京足立でもそのスタイルを貫いて、「細胞のダイナミクスを覗く」、「臨海生物リアル体験」などの実習スタイルの授業を開講しています。また、自主ゼミでもなるべく参加者が手を動かすようなテーマを設定しています。

今後も面接授業は引き続き担当する予定ですが、それに加え、所長の業務を通じて、学生の皆さんが興味を持って積極的に参加できるような面接授業を展開できるように努力するつもりです。

さて、今年2023年は放送大学の設立40周年で、東京足立学習センターはその前身の東京第三学習センターの設置から30周年となります。それを記念して講演会を開催するとともに、機関誌「葦立」で特集を組むこととしました。この号の後半で、放送大学現学長の岩永先生を始め、歴代の所長経験者の方からのご寄稿を掲載しています。その前振りとして、初期の東京足立学習センターについて触れてみたいと思います。

平成5年（1993年）4月、放送大学の開設から10年後に東京第三学習センターが学生の受入れを開始します。センターが設置されたのは、足立区東綾瀬にあった足立区生涯学習振興公社生涯学習館の中でした。綾瀬駅を出て、千代田線が大きく北にカーブする内側の隣接地で駅近の好立地でした。当時は足立区内には大学がなかったため、第一号となる学習センターの設置は区民から大きな希望を持って迎えられたようです。

生涯学習館は、結婚式も出来るような立派なホールがあり、入学や卒業行事に使われていたようです。ただし、講義室は不足していて、単位認定試験を別館にあった和室の畳の上にシートを貼り、その上に机を置いて行った、との思い出話が当時の職員から語られています。

2000年に、千寿旭小学校跡地に「学びピア21」が完成したことを受けて現在の場所に移転し、その後2001年に、現在の東京足立学習センターに名称を変更しました。今年の4月から事務長に就任された山本直之さんは、当時の移転業務に携わった方です。移転に伴って実験室の整備を行う際に、当時の担当者から顕微鏡の購入について相談を受けたのですが、そのときの顕微鏡に今巡り会っています。それらを再整備して、現在でも複数の面接授業で使用しています。

学習センターの図書室に、「葦立」のバックナンバーが保管され、配架されています。創刊は1996年で、レトロな謄写印刷でした。今回の30周年を機に、不足分を補完して、ほぼ全号揃えました。興味があったら是非覗いてみて下さい。放送大学と放大学生の変遷の様子を垣間見ることが出来ます。



開設当初の東京第三学習センター

# 創設30周年に寄せて



放送大学長

岩永 雅也



放送大学東京足立学習センターは、1992年に東京第3学習センターとして開設されて以来、昨年度で30周年を迎えられました。まことにおめでとうございます。本稿掲載の機関誌『葦立』も68号を数えると伺っております。積み重ねてこられた歴史に心より敬意を表したいと思います。

当初の学習センターは、現在の千住ではなく、JR綾瀬駅近くに設置されました。その背景には、それまで区内になかった「大学」を何とか誘致したいという足立区の当時の熱い思いがあったと聞いております。そのため、開設後しばらくは足立区職員の方々に事務職員としてセンター運営をサポートしていただいております。とりわけ図書関係の事務に関しては、後々まで足立区のお世話になりました。放送大学の学習センターが開設されて以降、足立区内に国立・私立の大学の開設やキャンパスの移転等が相次ぎ、現在では総計6大学を数えます。放送大学も「呼び水」として多少お役に立ったのではないかと内心誇らしく思っています。ちなみに、その歴史ゆえに、区内6大学の学長が年に一度集まって催される恒例の会議の際には、放送大学が筆頭で紹介されます。

開設後には、私も面接授業等で何度も綾瀬にお邪魔いたしました。初代の所長は著名な政治学者の阿部齊先生でしたが、私が伺うたびに「このセンターをこうしたい、ああしたい」と熱く語られていたことを思い出します。その後学習センターは荒川河畔の千住「学びピア21」内に移り、東京足立学習センターと名称変更されました。阿部先生の後、所長は社会学の倉沢進先生、音楽学の徳丸吉彦先生と著名な先生方が続きました。実は、私も徳丸先生の後任として、2007年に所長を拝命しましたが、翌年に専任教員は所長を兼ねないという方針が決まったため、前任の先生方と比べて在職期間はずっと短くなりました。しかし、その2年間に多くの仕事をさせていただき、濃密に過ごさせていただきました。それもあって、千住は今でも私の想いの詰まった土地になっています。

放送大学は、現在、社会の変化と情報技術の進展にあわせて、試験のWeb化やライブWeb授業へのシフト、諸手続きのWeb化など、教育と運営のシステムのDX(ICT化)を進めています。それに伴って、日本全国に設置された学習センターに期待される役割や機能も、たとえば地域の学習拠点活動や生涯学習教材の地域への発信など、大きく変化することが期待されています。東京足立学習センターのこれからがとても楽しみです。



## 創立30周年から次の時代へ

2019年度～2022年度東京足立学習センター所長在任

### 猪崎 弥生

平成4年(1992年)に東京第三学習センターとしてスタートした、放送大学東京足立学習センターが、このたび創立30周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。



私は2019年4月より2023年3月までの4年間、所長を務めさせて頂きました。その4年間を振り返りながら、東京足立学習センターの未来に思いを馳せてみたいと思います。

就任1年目は、通常の勤務体制で入学者の集い、面接授業、単位認定試験、9月の学位授与式、学生研修旅行、公開講演会など、ひと通りの経験ができたように思います。

2年目からはコロナ禍になり、通常の業務ではなく、どのように学習センターを運営していくかを職員と協議・協力してコロナ禍における変則的な業務を一緒に行って参りました。2020年度1学期における全ての面接授業の休講は思ってもみない措置であったため、面接授業をご担当頂いている先生方への連絡や受講予定の学生への周知等を学習センター一丸となって行いました。その後、面接授業がオンライン授業にもチャレンジするようになり、感染対策を慎重に行った対面授業も恐る恐る再開しました。このような中でも、学習センターの意思統一を明確にし、学生への不公平が生じることのないよう努めました。今思えばコロナ禍の中、綱渡りをしているような毎日であったと思います。

また、2019年9月の学位授与式後の懇親会において、学芸員資格を取得した学生からその苦勞を聞き、学芸員として頑張りたいと励ましたことがありました。昨年、手紙と共に、勤務している博物館の催しのチラシをお送り頂き、その学生が学芸員の仕事をしている「今」を感じられたことは、私にとって嬉しい思い出になりました。

東京足立学習センターは足立区生涯学習総合施設(通称:学びピア21)の6階に講義室、実験室、事務室という学習センターの機能を集約しており、視聴学習室の設備を整えた図書室も併設していることから、所属学生のサポートができる体制を維持しております。

2022年度よりWeb受験による単位認定試験が実施されていることもあり、今後は時代に即したデジタルテクノロジーの導入を促進する必要があると考えます。これから所属学生がこうしたデジタル社会で落ちこぼれることのないよう、学習できる環境を整備していくことが放送大学全体の喫緊の課題であると考えます。

そうした課題に向けた取り組みの中で、東京足立学習センターが未来に向けてますます発展していくことを願ってやみません。

## 面接授業の魅力

2014年度～2018年度東京足立学習センター所長在任

### 柴 真理子

放送大学足立学習センター30周年、おめでとうございます。この節目の機会に、所長の任にありました5年間の想いを述べさせていただきます。センターでの入学式、学位授与



式、面接授業、試験、講演会、同窓会と様々な場で年齢やバックグラウンドの異なる学生や卒業生との出会いがあり、その出会いを通して学生の学ぶ意欲、学びの内容への希望、課題等を知ることができました。このことは、所長の重要な任務である面接授業の企画・運営・実施に大いに力となりました。

学生からの希望やアンケートの意見等を反映できるように、私のネットワークにはない新鮮な講師を知人にご紹介いただいたり、色々な大学のHPを見ることに多くの時間をあてました。探し当てた全く存じあげない方に講師をお引き受けいただき、その授業を学生が喜びを持って学んでいる姿に、私は次の企画へと背中を押されました。

面接授業の実施にあたっては、当時の脇元事務長はじめ、スタッフの皆さんが、事前に講師ときめ細やかに連絡をとって準備を進め、学生への心の行き届いた対応によってスムーズに運営ができ、当学習センターは暖かな雰囲気にも包まれた学びの場であったと自負しております。

面接授業後に、講師にご感想を伺うと、例えば「様々なバックグラウンドの受講生は、学ぶ意欲が高く熱心に授業に参加し、思いがけない質問や鋭い指摘が私を成長させてくれる。今後とも、学生との相互作用を大切に、生きた授業になるように精進していきたい」という言に象徴されるように、ここでの講義が、単に学生の学びの場ではなく、講師にとっても新鮮な気付きがもたらされる場であることがわかります。講師の先生とは、ご研究や現代の大学教育の様相等について意見交換することもあり、次期の面接授業を企画するうえで大変有益で、また私にとりましてとても刺激的で幸せな時間でした。

面接授業と共に、広報も大きな業務でしたが、当センターの建物は足立区からの借用のため、建物に看板はなく、場所がわかりにくい。これをどうするかスタッフで知恵を出し合い、足立区と折衝を重ね、4号線沿いから見えるセンターの窓に横断幕を設置できたことは大きな喜びでした。

時代の要請であるリカレント教育やリスキリングの大切な場である放送大学と学習センターがますます魅力的な学びを提供されることを願っております。

## 祝放送大学東京足立SC 創立30周年

2009年度～2013年度東京足立学習センター所長在任

### 冨永 典子



私は放送大学東京足立SCのセンター長を2009年4月から2014年3月まで務めました。それまでは恥ずかしながら放送大学については全く無知でTVでの授業をたまに見る程度でした。

東京足立SCは南関東ブロック(文京、渋谷、多摩、足立、神奈川、千葉、埼玉)の一員で、各センターとも学生数が多く、都市部のセンター故の特徴、問題点も共通しており、各センター長さんにはいろいろと助けて頂きました(時には冨永の大暴走を止めると心配されたことも)。

学習センター長の仕事の一つは、センターで行われる面接授業の企画です。それまで放送大学の専任教員が企画していたのを、就任前年より各センター長が独自で行うことになりました。学生が興味を持つよう、足立として特徴を出すべく、センターにいろいろな分野の客員教授をお迎えしてその先生方にも企画して頂き、またありとあらゆるコネを使って様々な授業を企画しました。また、面接授業以外にも客員の先生方にご自分の専門での自主ゼミも始めて頂きました。

当時はようやくPCが仕事以外、個人にも普及し始めた頃で、面接授業では毎学期「初歩からのパソコン」を2回ずつ開設しました。なおかつ初歩の初歩を教える所長による個人レッスンも始めました。単位認定試験をインターネットで行う現在から見れば、今は昔の物語です。

年2回の単位認定試験の実施も大変でした。規模の小さい足立でさえ、日曜日には延べ2000人くらいが受験しましたので。

放送大学に就任して一番良かったと思うことは、放送大学の学生さんを知ることが出来たことです。若い方もお年の方も、様々な方が実に様々な学び方をされていて、特にお年の方は生き生きとしてらして、退職後どのように過ごすか模索中の私は大いに刺激を受けました。そして就任中の5年間は事務の方に助けて頂き感謝しています。

退職後は放送大学に入学して(東京足立学習SC所属)、夏涼しい釧路に住み、これまでに触れる機会がなかった分野の授業を習得しつつのんびりと過ごしています。コロナ禍前の単位認定試験は特急で1時間半かけて帯広に行っただけの受験でした(今から思うとこれも楽しかった)。インターネット受験になって学習センターの事務方のご苦労が軽減されてよかったと思っています。

先日TVのニュースで「足立の花火大会…」と聞こえてきて、東京から遠く離れた釧路において東京足立学習センター時代の諸々の出来事が一瞬にして懐かしく思い出されたことでした。

## 30周年記念によせて

東京足立学友同窓会 会長

### 高橋 博



東京足立学習センター創立30周年を迎えられ、誠におめでとうございます。

私は放送大学で学び始めて約10年、東京足立学友同窓会に入会して約5年、同会長として2年になります。これ

以前の学習センターの状況は把握していませんが、この立場でご挨拶させていただきます。

約10年前は放送授業と面接授業は、ネットを使用した授業は一部のみ、私の所属していた大学院のプログラムにはなく、放送授業を自宅のDVDレコーダで記録して後で見ていたものです。図書室も学習センターのPCで、図書検索はできましたが、自宅ではできませんでした。

この10年で状況は全く変わり、放送授業はWEBで受講、通信指導や試験はほとんどWEBになり、さらに面接授業や大学院ゼミも多くがWEBで行われています。コロナ禍が大きな原因ではありますが、この変化にうまく対応できた放送大学の努力は見事なものでした。皆様の努力のたまものだと思います。半面学習センターの役割も大きく変わり、役割は小さくなったかもしれませんが。(ほとんど学習センターに行かなくても学習できる環境になりました。)

しかし、IT技術がいかに進んでも、大学での対面での学び、対面での仲間の交流はやはり重要であり学習センターの必要性は今後も続くでしょう。

この3年くらいはコロナ禍の影響で、WEBでの面接授業や講演会等はあったものの対面でのイベントは大きく制限されましたので、学習はできたとしても、放送大学の特徴を生かした仲間と共に学ぶということが難しいのが残念でした。そこで、当同窓会では、本年から対面での活動重視を再開して、会員である学生間の交流を高める為に①学習センターとの親交をより図ること、②全国の放送大学(学友)同窓会との連携を今以上に図ることを目標とします。単にコロナ禍以前の状態に戻すのではなく、この間に学んだ経験を活用した新しい学友同窓会の活動を目指します。その為に、PCや携帯端末の利用ができない学生へのサポートを学習センターのご協力をもとに実施させていくことが重要になります。全国の学生が利用できる研究発表会や交流会を実施できるようにするのが目標です。

今後も放送大学と学生の交流がより多くなり、東京足立学習センターの益々の発展を期待し、東京足立学友同窓会もそのお手伝いをさせていただきます。よろしくお願いいたします。

## 東京足立学習センター 沿革

昭和56(1981)年 6月	放送大学学園法公布・施行
7月	放送大学学園設立
昭和58(1983)年 4月	放送大学設置
昭和60(1985)年 4月	地上波放送による授業開始(関東地方のみ)学生受入れ
平成4(1992)年 10月 1日	足立区東綾瀬一丁目に学習センターを設置
10月 3日	東京第三学習センター事務所開きを挙
平成5(1993)年 3月30日	東京第三学習センター開所式を挙
4月 1日	東京第三学習センター学生受入れ開始
平成10(1998)年 1月21日	C Sデジタル放送による全国放送開始(2012年3月終了)
10月 1日	全国の学習センターで全科履修生の受け入れを開始
平成12(2000)年10月 1日	足立区千住五丁目に移転
10月 4日	移転披露式を挙
平成13(2001)年 4月 1日	東京足立学習センターに名称変更
平成14(2002)年 4月 1日	大学院文化科学研究科に学生受入れ開始
平成18(2006)年12月 1日	地上デジタル放送開始(関東エリア)
平成23(2011)年10月 1日	B Sデジタル放送開始
平成25(2013)年	東京足立学習センター開所20周年記念講演会
平成26(2014)年 4月 1日	放送大学大学院博士後期課程設置
平成27(2015)年 4月 1日	オンライン授業配信開始
平成30(2018)年 9月30日	地上デジタル放送・F Mラジオ放送終了(関東エリア)
平成30(2018)年10月 1日	B Sマルチチャンネル放送開始
令和2(2020)年 4月	covid-19流行、緊急事態宣言による入構制限、面接授業閉講
令和4(2022)年 7月	Web単位認定試験開始 I B T化開始
令和5(2023)年	東京足立学習センター開所30周年記念講演会



生涯学習館(綾瀬)パンフレット



2013年(創立20周年記念) さかなくん講演風景



2014年度1学期 学位授与式風景



## 通信指導について

### ● 通信指導とは？……学期の途中に提出しなければならない中間試験のようなものです。

放送授業と一部のオンライン授業科目について、各学期の途中に1回一定の範囲で出題され、その答案を提出して担当教員の添削指導を受けることです。

通信指導の結果により、単位認定試験の受験資格を得ることができます。  
未提出あるいは期限までに提出しなかった場合は、評価対象とはなりませんのでご注意ください。

問題は原則、印刷教材(テキスト)と同時に送付されます。内容は、概ね放送授業7~8回終了時点までの内容になっています。また、インターネット(web通信指導)でも提出可能です。(※一部の科目を除く。)

**提出期間** 【郵便】 11月15日(水)~11月29日(水) 《大学本部必着》

【Web通信指導】 11月8日(水) 10:00 ~ 11月29日(水) 17:00  
(提出期限を過ぎると受理されませんので余裕を持って提出してください。)

**添削結果  
返送時期**

2023年12月末~2024年1月上旬

《添削結果が以下の未着期限までに届かない場合は、大学本部にお問い合わせください。》

- ① 択一式科目(併用式科目の択一部分)…… 1月5日(金)
- ② 記述式科目(併用式科目の記述部分)…… 1月12日(金)

## 面接授業について ※教養学部のみ

### ● 面接授業とは？

放送大学では、全国50カ所の学習センターと7カ所のサテライトスペースにおいて年間約3,000科目の「面接授業(スクーリング)」を実施しています。面接授業は、直接教員から指導を受ける機会として重要であるばかりではなく、学生同士の交流・啓発の場としても広くご利用いただいております。

全科履修生は、卒業要件として、面接授業(またはオンライン授業)の単位を20単位以上修得する必要があります。選科履修生・科目履修生の方は必修ではありませんが、ご自身の学習したい内容に合わせて面接授業を受講することができます。(面接授業は1科目1単位です。)

### — 2023年度第2学期面接授業追加登録について —

科目登録決定後に空席のある科目については、追加登録期間中に科目の登録を追加することができます。授業を実施する学習センターにより登録の手続き方法が異なりますので、必ず授業を実施する学習センターに確認してください。

※今後の状況により変更となる場合があります。

追加登録  
日程

**空席発表** 10月14日(土) 12時 空席状況は放送大学ホームページでお知らせします。

**事前申請** 10月14日(土)~10月18日(水) 郵送の場合は必着、窓口の場合は17:30までに申請願います。

**登録期間** 10月19日(木)~科目ごとに定められた受付期日まで

10月19日(木)15時以降、システムWAKABAで空席の状況をリアルタイムで確認できます。  
※詳しくは当センターホームページをご確認ください。

